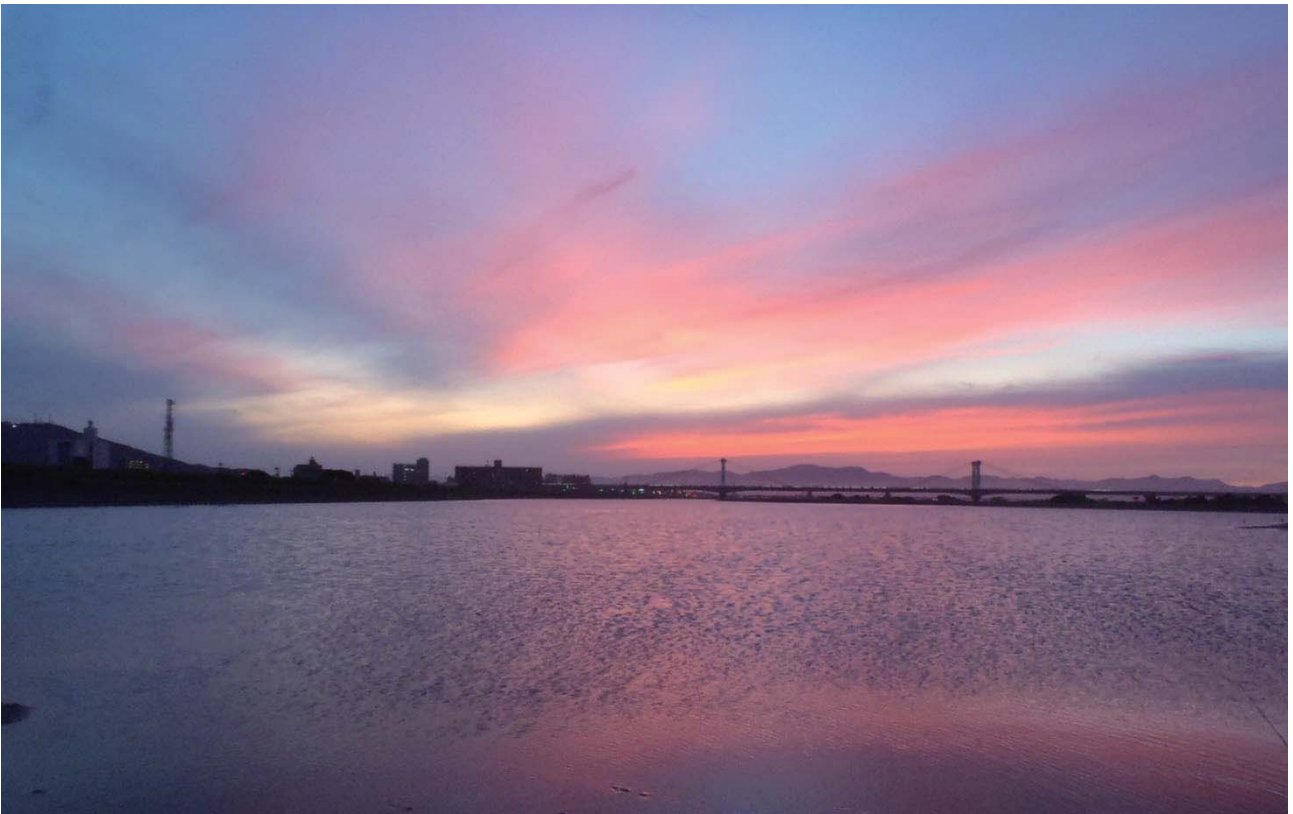


吉野川を釣る！



(夕日に染まる河口域)

こんにちは、さすらいの釣り人系河川管理者のNです。趣味のルアーフィッシングを通じて、吉野川流域の素晴らしさを皆様にお伝えできればと思います。

私は、ルアーでいろいろな魚を釣ることを趣味としていて、現在までに300種ほどの魚（淡水・海水・軟体動物含む）を釣っています。

今回、徳島に本当に久しぶりに勤務することとなりましたので、「吉野川でルアーにより何種類釣れるのか」に挑戦してみたいと思います。

現在45種達成ですが、今回は何種類釣れるでしょうか？

少し、月日も経ってしまいましたが、2019年の春～秋の河口域での小型スプーン・ジグでの釣果をご紹介します。

今回は、もうかなり恒例化した河口域での小型魚狙いです。3年に渡り、吉野川の魚を狙って来ましたので、狙う魚が少なくなり種類の多い河口域に目が向いてしまいます。

同じ狙いでは面白くないので、今回は私が大好きなスプーンを中心に使って河口域を探ってみました。

スプーンとは、その名の通り食事の時に使うスプーンを、昔の人が湖で誤って落としてしまい、その落としたスプーンに鱒が食いついたことから発明されたと言われております。



今回使用した2～7gのスプーン

スプーンの使い方ですが、スプーンが泳ぐか泳がないかのスピードでただ巻きするというのが基本です。川では流れに乗せてただ巻きでも釣れるのですが、海の魚は、ただ巻きは見切ることが多いので、海で使用する場合は、底まで沈めてちょんちょんちょんと3回ほどしゃくって落とす、という動作を繰り返すだけで、たいていの魚が釣れます。表層魚には表層で、同じことをします。

スプーンの良いところは、かさばらないため、色々な種類を釣り場に持ち込むことが出来ることと、ある程度重いため、表層から底まで全部の層を狙うことが出来ること。釣り人の動かし方次第で、様々な動きをしてくれる。まあ、良く言えば釣り人の腕の差が出るところです。さて、実釣編です。何が釣れたでしょう？



と、その前に釣行時の楽しみです。

せっかく自然いっぱいの吉野川河口ですので、釣りだけでなく色々なものを観察してみましょう。



春になると、河口域にも色々な植物が花を咲かせます。

植物は、あまり詳しくないのですが、ピンク有り、ムラサキ有り、黄色ありと様々な野草が花を咲かせています。



釣りたい気持ちは、十分わかりますが、少しその歩を止めて、足下の草木にも気持ちを向けてみましょう。

案外、新たな発見があるかも知れません。

また、河口の干潟には、カニや貝なども多く、いろいろ見ていると、時間を忘れることもしばしばです。



今度こそ、実釣編です。

始めは、キヒトデです。て、魚じゃないじゃん！そうです。ヒトデは底に張り付いているのですが、ルアーでよくヒットします。あと、ナマコとかウミウシとか二枚貝も釣れることがあります。

また、カニ・亀・カエルに至っては、狙って釣ることも出来ます。



まあまあ引っ掛かってくるヒトデ



次は、干潟で最近よく見かける謎の穴です。皆さん、何だと思いませんか？

小さい穴は、カニとかエビの穴ですが、それ以外の大きなくぼみが砂・泥の底質のところに沢山あるのです。



干潟にたくさんのクレーターが！

最近、アカエイ・ナルトビエイが増え、ルアーにもヒット（たいていはスレですが）してきます。左下は、チヌ狙いのスプーンにヒットしてきた95cm程のアカエイですが、これでも5kgくらいはあり、0.5号では釣り上げるのに20分くらい掛かりました。

これでも小さい方で、日本記録は27kgで海外では250kgの記録もあります。

こいつは、重いこともありますが、とんでもなくタフで全然弱りません。引っかけてしまったときは、その時の時合い（魚の釣れる時間帯）は、諦めるしかありません。

ナルトビエイに至っては、ヒットするとジャンプして逃げます。こちらも堂々の10kgオーバーとなり、こちらもヒットしてしまうと大変なこととなります。

右下の写真は、浅瀬で食事中？の2匹のアカエイでこんなに近くでいるのは初めてだったので、つつい写真を撮ってしまいました。

尾に大きな毒針があり、刺されると大けがをしますので、ご用心を！



95cmのアカエイ



浅瀬で食事中と思われる2匹

続いて登場してもらうのは、左下の写真のウロハゼです。

この魚は、右下の写真のマハゼによく似ていますが、少しいかつく、ずんぐりしています。マハゼと同じような所において、マハゼ釣りをしていると混じって釣れるので、混同している人も多いのでは？

ウロハゼは、マハゼに比べて口が大きいせいか生息している場所では、比較的簡単に釣ることが出来ます。小さなワームで目の前でちょこちょこ動かしていると、ばうくり食いついてきます。

また、味は食べ比べてみたことはないのですが、ウロハゼのほうが良いようです。



20cmほどのウロハゼ



良く似ているマハゼ【再掲】

次に登場してもらうのは「キチヌ (キビレ)」です。こちらもちヌによく似ていますが、ヒレが黄色であることで区別が付きます。どちらも内湾や河口域に多くこちらも混同している人が多いのでは？

どうい理由がよく分かりませんが、キチヌの方がルアーを良く追います。最近、チヌポッパー（チヌをポッパーで釣る方法）チニング（チヌをラバージグで釣る方法）カラス貝型ワームによる落とし込みなどと、チヌを狙う方法が確立されてきましたが、私はまだまだ苦手で、チヌだけを狙って釣るまでには至っていません。

キチヌは、河口付近から中流（淡水）までで、ミノー、メタルジグ、スプーンを投げていると普通に釣ることが出来ます。まあ、サイズは選べませんが・・・・・・・・

一番釣れる方法は、深く潜るミノーで底に当てながら、土埃を立てて泳がせると頻りに当たって来ます。キチヌは口が硬い歯で出来ているので、針先の鋭い針に変えておくことをお奨めします。それだけでヒット率が断然違います。ちなみに私は、日本産チヌ5種類のうち4種をゲット。まだゲット出来ていないナンヨウチヌを狙っています。



20cmほどのキチヌ



良く似ているチヌ (クロダイ)【再掲】

こちらは、投げ釣りの邪魔者「クサフグ」です。こいつは、ルアーでも邪魔者でメバル、アジ狙いでワームを投げているとワームを食いちぎっていく厄介者です。

ただし、1～3月の厳冬期に何も釣れない時にも相手をしてくれ、その時だけは、ありがたい存在です。

シグ、スプーンで釣れますが、ポッパーに反応することもあり、何も釣れない時には、ついつい狙ってしまいます。



ワームを食いちぎっていく憎いやつ



秋の定番ギンガメアジ

続いては、秋の定番の「ギンガメアジ」です。本来は、南方の魚ですが黒潮に乗って徳島の海岸にたどり着きます。夏場の間は、河川を良く遡上し、水温の低下と共に河口付近に溜まります。

ただ徳島県では、海水温が下がりすぎるので2月には死んでしまいます。これを「死滅回遊」と呼びます。黒潮が当たる地域では、様々なヒラアジ類が接岸し、私は10種類のヒラアジ類を釣っています。

続いては、「シロギス」です。シロギスは、基本的にはゴカイ等を食べているので、ルアーで釣れることは稀です。

私も、これが3匹目で狙って釣れるようなものではありませんが、最近は、ゴカイに似せたワームが発売され、これを使えばかなり釣れるようです。ただし、臭いがきつく取扱には注意が必要です。専用の入れ物も発売されているので、試してみてもは如何でしょうか？



メタルジグではめったに釣れないシロギス

と、このように河口付近では、狙い方次第で、様々な魚が釣れます。道具も、バス用、アジ・メバル用のもので全然大丈夫なので、すっごく手軽です。砂地を狙うので、根掛かりも殆どありません。

ただ、いつでも釣れるのかというとそうでもなく、潮が動いているとき、朝夕のまづめ時、ベイト（小魚）がいるときに魚が活性化しますので、そんなときに釣行してみてください。

今回は、スプーンを中心とした河口域の小物釣りの様子をご紹介しましたが、吉野川河口域は、ルアーフィッシングの対象魚が沢山いますので、みなさんも釣りに行って下さい。

<タックルデータ>

ロッド：メバル 8.6 f (約 2.5m)

リール：ダイワ 2500 番

ライン：PE 0.5号

リーダー：700かボツ 1.5号

ルアー：5g 前後のワーム・メタルジグ

今回、6魚種ゲット。通算51魚種となりました。次は何を狙おうかな？

釣り人Nのお魚紹介コーナー



今回釣った
お魚うんちく

<アカエイうんちく>

トビエイ目 アカエイ科 アカエイ属 アカエイ

棲んでいるところ:海水魚 沖縄を除く日本全国と朝鮮半島、台湾、中国の一部に分布。浅い干潟に多い。

大きさ:全長150cmほど。体盤長(尾を除く)80cm以上になる。

食べているもの:砂地などいる甲殻類、ゴカイなどを食べる。

食べ方:煮つけ、煮ごごり、めた、ソテー、味噌汁、地方によっては、スーパーに普通に売っている。旬は夏

<ウロハゼうんちく>

ススキ目 ハゼ亜目 ハゼ科 ウロハゼ属 ウロハゼ

棲んでいるところ:海水魚 福島・新潟以南の日本全国、台湾、中国の一部。汽水域の干潟、内湾

大きさ:全長25cmほどになる。

食べているもの:肉食性が強くゴカイ、甲殻類、貝類、小魚をどん欲に補食。

食べ方:唐揚げ、天ぷら、煮つけ、洗い。数釣れず、食べたことはないが、味は良いようだ旬は夏。

<キチヌうんちく>

ススキ目 ススキ亜目 タイ科 クロダイ属 キチヌ 標準和名は、決まっておらずキビシとしているものもある。

棲んでいるところ:海水魚 千葉県以南の太平洋側、朝鮮半島、中国の一部、フィリピン等 内湾、河口

大きさ:最大で50cm程度。もっと大きなものもいるようだ。

食べているもの:甲殻類、ゴカイ類軟体動物、海藻、小魚など幅広い食性を示す雑食性。

食べ方:刺身、カルパッチョ、煮物、汁物、フライ、塩焼き、ソテー。旬は春から夏

・キチヌと同じ、初めはオスで、大きくなるとメスになる。

<クサフグうんちく>

フグ目 フグ科 トラフグ属 クサフグ

棲んでいるところ:海水魚 日本全国の沿岸 大きさ:最大で25cm程度。

食べているもの:甲殻類、ゴカイ類軟体動物、小魚など幅広い食性を示す雑食性。

食べ方:ぶく毒あり、食べてはダメ

<ギンガメアジうんちく>

ススキ目 ススキ亜目 アジ科 ギンガメアジ属 ギンガメアジ

棲んでいるところ:海水魚 南の海。日本には、黒潮に乗ってやってくる。黒潮の接岸するところ。

大きさ:全長80~90cmに達する。 食べているもの:肉食性で小魚や甲殻類を食べる。

食べ方:刺身、煮物、汁物、フライ、塩焼き、ソテー。旬は冬

<シロギスうんちく>

ススキ目 ススキ亜目 キス科 キス属 シロギス

棲んでいるところ:海水魚 日本全国の沿岸。 大きさ:最大で30cm。尺を超えるものを肘たたきという。

食べているもの:主にゴカイ類。 食べ方:天ぷらが有名だがどんな食べ方をしても美味しい。旬は春から夏